

京都市では、各施設の運営がどのようになっているか、税金がどのように使われているかを市民の皆さまに分かりやすくお伝えする取組を行っています。

京都市京セラ美術館（京都市美術館）の運営について

当館は、市民の皆様の寄付金によって昭和8年11月に開館した全国で2番目の歴史ある大規模公立美術館であり、公立美術館としては創建当時の姿を残す国内最古の美術館です。

令和2年5月にリニューアルオープンし、近代以降の京都の美術や最先端の現代アートなど多様なジャンルのアートを発信しています。

美術館の収入と支出（令和元年度）

<美術館の料金体系と入場者数>

コレクションルーム入場料 有料の方：一般（市内520円、市外730円、団体620円）

小中高生等（個人300円、団体200円）

無料の方：小学生未満、小中高生等（市内在住又は通学）、市内在住の70歳以上の方、障害者手帳等を提示の方及びその介護者1名

令和元年度の入場者数105,671人（美術団体展、日展京都展の入場者数。コレクションルームは令和2年度から開設）

総額 3.5 億円

<支出>

利用者1人当たりの運営経費 3,270 円（A）

施設の維持管理費 1,680 円	職員人件費 1,320 円	備品購入費 270 円
---------------------	------------------	----------------

<収入>

利用者1人当たりの収入 330 円（B）

総額 0.3 億円

総額 3.2 億円

（A）－（B）

基金等 170 円 （5%）	使用料 160 円 （5%）
----------------------	----------------------

展示室使用料等

差額 2,940 円（90%）

市民の税金で負担（公費で負担）

いずれも概数
10 円単位で四捨五入

- 令和元年度は、美術館の再整備中により本館が使用できなかったため、収入が落ち込んでいます。
- 施設を利用しない方も含めた市民の負担（公費負担）により、現行の使用料で施設が運営されています。

施設の運営費は、利用者の負担（施設使用料等）と公費負担（市民の皆様に納めていただく税金）などにより賄われています。

施設運営の現状について「見える化」を進め、施設の状況に応じた収支改善の取組（維持管理コストの見直し、施設の目的を踏まえた稼働率の向上、受益者負担の適正化等）を進めてまいります。